

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	地域とともに、個々の思いや願いの実現をめざし、自立と社会参加のための力を育む					
(2) 現状と課題	小学部30名、中学部17名、高等部38名、計85名が在籍し、そのうち6名が隣接するはまゆり学園に在園している。認可学級は25学級であるが、指導学級として編制している19学級のうち13学級が重複学級となっており、障害の重度重複、多様化が進んでいるほか、高等部在籍数が多い傾向にあることから、児童生徒一人一人に応じた指導の更なる充実が求められている。 むつ下北地区唯一の特別支援学校であることから、就学や教育などに関する学校や保育所等、市町村教育委員会への支援のほか、放課後等デイサービス事業所や移行支援に関する施設、事業所等との連携について、更なる充実が求められている。					
(3) 重点目標	1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開 2 キャリア発達を促す指導の充実 3 保護者や地域と連携・協働した活動の推進 4					
(4) 結果の公表	・令和6年2月2日(金)、2月8日(木)、9日(金)に開催した学部ごとの参観日において、学校評価の結果の説明及び要望事項への回答を行った。 ・令和6年2月1日(木)に開催した学校運営協議会において、教職員による自己評価や保護者アンケートの結果を説明するとともに、学校関係者評価を行った。 ・令和5年度学校評価結果報告書を学校ホームページにて公開するとともに、来年度4月に行われるPTA総会において、同内容を行う。					
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成						
学校運営協議会委員9名 (施設関係者2名、教育活動協力者3名、地域住民2名、保護者2名)						
自 己 評 価						
学校関係者評価						
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の展開	①目指す資質・能力を明確にした教育活動の実施 ②個別最適な学びと協働的な学びの実施 ③ICTを活用した指導の展開	おおむね達成 ・年間計画や授業等において、育成を目指す資質・能力の3つの柱を意識して学習目標を立てたり評価を行ったりした。 ・日々の授業の中で、児童生徒の実態等に応じてICTやアナログを選択できるようにしたり、話し合い活動等児童生徒同士が関わる場面を設定したりするなど、児童生徒が主体的に取り組むための取り組みが見られた。 ・ICT活用については、校内研究のテーマにも取り上げ、児童生徒の実態やねらい等に合わせ積極的に活用し、工夫した実践が見られた。	B	・運営協議会の際の来校時だけでなく、行事の案内により児童生徒一人一人の学習場面や活動場면을参観することができた。広く地域の方々にも周知できるとよい。	・児童生徒一人一人のニーズに応じた指導のため、教科横断的な視点や、児童生徒同士が対話的に関わる場面設定、児童生徒が自ら課題を見つけ課題解決に向かう場面などを意識した授業づくりが必要である。 ・ICT機器の活用については、ICTのもつ適時性を有効に活用できるよう、授業展開につなげる。 ・上記のとおり、課題を踏まえて次年度も継続して取り組む。

2	キャリア発達を促す指導の充実	①児童生徒の自己実現（自分の役割、自分らしさ）をめざした指導の展開 ②児童生徒の自立と社会参加をめざした指導の展開	おおむね達成 ・学校内での児童生徒の役割を意識した授業や活動を設定するとともに、称賛や次への期待を込めるような振り返りを大事にした実践が見られた。 ・児童生徒の年齢や発達段階、実態に応じて、役割への意識や自己の課題への気づき等、様々な活動場面で自立と社会参加につながる取組が見られた。	B	・児童生徒一人一人を色々な角度からみて、成長に向けた話し合いができた。今後も継続してほしい。 ・むつ下北地域に障がい者雇用をしている農場や事業所などについて、情報提供をお願いしたい。	・児童生徒の生活年齢を踏まえた授業展開をし、児童生徒が達成感や自己有用感を得られるよう工夫を図る。 ・校内にとどまらず、家庭や地域で生かすことができるよう、活動内容や場面の工夫を図る。 ・上記のとおり、課題を踏まえて次年度も継続して取り組む。
3	保護者や地域と連携・協働した活動の推進	①保護者との連携及び保護者・地域への積極的な情報発信 ②地域の人材や社会資源を活用した協働活動の実施（コミュニティ・スクール） ③交流及び共同学習の計画的・組織的な実施	おおむね達成 ・連絡帳や学級通信、学校だより、ホームページ等により、保護者や地域への情報発信を積極的に行った。ホームページは、週3回以上の頻度で更新した。 ・各学部とも外部講師を計画的に招聘し、外部講師と触れ合ったり学んだりする機会を設けたことで、児童生徒が意欲的に活動に取り組む姿が見られ、その後の校内での指導にも生かされた。また、学校運営協議会委員から様々な意見をいただき、次年度以降の取り組みのヒントを得ることができた。 ・交流籍制度による居住地校交流の手続きがスムーズになり、地教委、当該校と連携しながら実施することができた。また、四校園スポーツ交流会や三校交流会、ものづくり交流、エールボール活動など、関係者と連携して計画的に実施することができた。	B	・地域との連携に拡がりが見られているが、こどもたちの将来のために何ができるのかを具体的に考えていく必要がある。 ・「むつ活」への参加を検討してもよいのではないかと。	・外部講師の活用や地域での行事展開、地域の催しへの参加などを今後も継続し、地域への啓発に努める。 ・居住地校交流や学校間交流は今年度同様に継続実施する。 ・教育活動の様子は本校ホームページや学校通信により情報発信する。 ・上記のとおり、課題を踏まえ、学校運営協議会の力も借りながら次年度も継続して取り組む。

(11) 総括	<p>保護者及び学校関係者ともに学校評価の評価点平均が3.5(評価点4が「よく当てはまる」、1が「全く当てはまらない」の4段階で評価)以上であることから、今年度の教育活動についておおむね良好な評価をいただいております、引き続き教育活動を充実させていく必要がある。</p> <p>保護者アンケートにおいて、児童生徒への指導や学習活動についての評価が昨年度と同程度であった。また、各項目で「わからない」と回答した方も一定数あった。児童生徒への支援や指導方法等について引き続き見直し改善を図るとともに、様々な機会を捉えて学習の様子や成果を関係者で共有し、積極的に外部へ発信していく。</p> <p>教職員がより充実した指導ができるよう、教職員の働き方改革の観点から、各学部の行事等の見直しや各分掌等における業務内容の整理を進め、教職員の業務改善に努めていく必要がある。</p>
---------	---